みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

国立民族学博物館研究報告別冊 no.018; まえがき

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2010-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 立川, 武蔵 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/3640

まえがき

立川武蔵

1959年のチベット動乱以後，チベットの仏教，特にその教理，歴史，美術工芸，仏教パンテオンの図像学システムを研究するための資料がそれ以前に較べてより容易に入手できるようになった。この30年あまりのチベット学の進展にはめざましいものがあるが，チベットがこの千数百年に消化・吸収した仏教文化の内容はいまだほとんど明らかにされていない。一方，チベット仏教はインド仏教文化のほとんどを吸収し，今日に伝えているために，チベット仏教研究は単にチベット文化のみならず，インド，ネパールの仏教文化を知るためにも不可欠である。

チベットのギャンツェの地にあるペンコルチューデの仏塔は，戦前からその存在が知られていたが，今日に至るまでその寺院の壁画の全内容は明らかとなっていない。イタリアのロ・ブーエの出版はこの寺院の下層部分の写真を主として含み，上層部分の写真はわずかな数にとどまる。この仏塔はチベット仏教美術の至宝といわれ，15世紀頃のチベット仏教美術最高期の壁画を残している。本書は，民博共同研究員の正木晃氏が5回の調査旅行によって撮影した写真の中からカラー図版140点，モノクローム図版49点を選び解説を付けて出版しようとするものである。チベット密教教理，図像，美術史，儀礼に関する研究にとって不可欠な資料となろう。

なお，これは平成7年度から行なわれている国立民族学博物館の共同研究「聖性と世界との関係に関する研究」（立川武蔵代表）の成果刊行の一部である。

1997年1月